

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ソングライティング		授業形態 / 必・選	講義	必修
			年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験25年 1996年メジャーデビュー。2002年より、ボイストレーナーとしてプロ・アマ、ジャンル、年齢問わず、幅広く指導中。自らの音楽活動の傍ら、楽曲提供・ナレーションなどでも活動中。かつては映画で主役を務めた。これまでのべ2000人以上のボイストレーニングを行う。</p>				
授業概要					
楽曲を作ることによる音楽理論、作詞、作曲方法の習得					
到達目標					
基礎力の更なる向上、自己表現・自己アピールの新たな可能性を発掘することによるヴォーカリストとしての成長					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	イントロダクション、個別の到達度確認、前年度復習、楽曲制作プランニング譜面の書き方、読み方のレクチャー、小テスト。ラインクリシェ説明。
【前期】 6～10回目	作詞技法、情景描写説明。ラインクリシェを使用した一般的なコード説明。
【前期】 11～15回目	各キーにおけるメジャースケール、マイナースケール、調合、ダイアトニックコードの小テスト。ドミナントモーション、II-V-I進行の説明、ハーモニーの付け方説明。
【前期】 16～20回目	復習、弱点補強。 3/4、6/8拍子の説明。秋をテーマにした作詞、作曲。発表。
【後期】 1～5回目	比喩表現、倒置法、体言止め、韻など、文章技法のレクチャー。 文章技法を使用した作詞、及びダイアトニックコードを利用した作曲、発表。
【後期】 6～10回目	様々な転調におけるコード進行、有効活用する方法をレクチャー、及び音楽ソフト使用による実践。
【後期】 11～14回目	代理コード使用法、ブルース進行についてのレクチャー。 ペントニックスケール、ブルーススケールのレクチャー。
【後期】 15～19回目	バンドアレンジの基本レクチャー。 提示したコード進行、お題からメロディ、歌詞を付ける。発表
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	まずは曲作りに対する苦手意識や諦めを無くすこと。そして初めから名曲を書こうとせず、とにかく作ることを繰り返し、出来上がったものを大切に。
使用教科書	目的に沿って自ら考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱課題	授業形態 / 必・選		講義 必修	
		年次	年間授業数	年間単位数	5単位
授業時間	90分(1単位時間45分)	40回(80単位時間)	2年次	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験15年 コンクール受賞歴を多数持ち、ソロリサイタル、演奏会、コンサートの他、オペラやミュージカルの舞台にも出演。日本語歌唱を得意とし、幅広いレパートリーを持つ。現在は演奏活動と並行して、ヴォイストレーナー、ヴォーカルトレーナーとしても活動。				
授業概要					
幾つかのテーマを設定し、それを学ぶ課題曲を各テーマに対して複数提示、その中から個々歌う曲を選び、練習していく。					
到達目標					
設定されたテーマ、それに沿った課題曲を歌い、歌に必要な各スキルを習得					

授業計画・内容	
【前期】 1～7回目	16ビート ダンスビートを主とした16ビートの曲の歌い方について。
【前期】 8～14回目	8ビート 8ビートの曲の歌い方について。
【前期】 15～21回目	テクニック 比較的技巧派の曲の歌い方について。 未修得テクニックに関しては、メソッドを行う。
【後期】 1～6回目	ロングトーン 比較的伸ばす音が多い曲の歌い方について。 共鳴と支えの確実性を上げる。
【後期】 7～12回目	言葉を伝える 各曲の世界観に相応しい発音の強さ、声のトーンでの歌い方について。 歌詞の解釈法、オケの音圧に対するコントロールについて。
【後期】 13～19回目	音域、ダイナミクス 主に高音域の歌い方、曲中の音程の変化に対する身体のコントロール方法。 共鳴の度合いを変化させ、その立体感と音程の変化の関連性の実践。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	自ら選んだ曲ではないものでも、歌としてレベルの高いものに仕上げられるスキルを持つこと。また、与えられた曲に対して好き嫌いを持ち込み、モチベーションに差をつけてはならない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	業界基礎知識	授業形態 / 必・選	講義	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	5単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験 38年 1983年にメジャーデビュー。その後、ヴォイストレーナーとして様々なメジャーアーティストを指導する傍ら、現在もヴォーカリストとしてライブやレコーディングを行っている。				
授業概要					
各種基礎知識のレクチャー。					
到達目標					
歌や音楽で目標を達成するのに必要な基礎知識、音楽業界の基礎知識、及びヴォーカリストに必要な基礎知識の習得					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	デビューに必要なこととは
【前期】 6～10回目	プロアーティストの活動の内容
【前期】 11～15回目	レコーディングに関して
【前期】 16～20回目	プロモーションに関して
【後期】 1～5回目	ライブに関して
【後期】 6～10回目	その後の展開に関して
【後期】 11～15回目	業界用語や特有の慣習に関して
【後期】 16～20回目	今始めるべきこと
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	音楽業界ならではの基礎知識やルールを知らない、軽んじることによる大きなチャンスの損失はあってはならない。更に、目標や夢に向かう“近道”を選べる自分を形成する為にも、これらの知識を確実に身に付けること。
使用教科書	目的に沿って自ら考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	分野別講座B	授業形態 / 必・選		講義		必修	
		年次	2年次				
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	20回(40単位時間)	年間単位数	2単位		
科目設置学科コース	音楽アーティスト科、芸能タレント科 全コース						
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目			該当	<input checked="" type="checkbox"/>	非該当	<input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経歴24年 高校時代よりバンド活動を行う。専門学校にて学んだ後、1998年レコーディングスタジオに就職し、数々のアーティストの音楽制作業務に携わる。						
<b>授業概要</b>							
専攻コースの授業内では習得の難しい様々な分野の基礎知識を、動画配信によるオンライン授業形式で行う。							
<b>到達目標</b>							
自身が音楽・芸能活動や仕事を行う上で、大半の事は自分で理解・判断し、達成への方法論を自ら考え出せる事を目標とする。							

授業計画・内容	
【前期】 1～2回目	・発声の基礎知識 歌唱、台詞(滑舌)
【前期】 3～5回目	・楽器の基礎知識 ギター、ベース、ドラム、キーボード、管楽器、ピアノ
【前期】 6～8回目	・音楽活動における基礎知識 譜面の読み方・書き方、リハーサルスタジオの使い方、楽器メンテナンスの方法
【前期】 9～10回目	・イベントの基礎知識① PA、照明、レコーディングの基礎知識。 イベント資料の作成方法。
【後期】 1～2回目	・イベントの基礎知識② ライブ、レコーディングの進行方法
【後期】 3～5回目	・音の基礎知識 電源、マイクの原理、音の仕組み、デジタル変換
【後期】 6～8回目	・パソコンの基礎知識 スペック、オーディオ、ピクチャ、ムービーについて
【後期】 9～10回目	・卒業後の進路に向けて デビュー、就職
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	今の時代、ある程度の事は自分一人で出来るスキルが求められます。「興味がない、関係ない」で終わらせず、自分自身の為に学ぶという意識を持って取り組んでください。
使用教科書	習得する内容に合わせ、随時テキストデータをPDF形式で配布。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	フィジカルトレーニングⅡ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験21年 2000年メジャーデビュー。ソロヴォーカリストとして人気音楽ゲームのオリジナルソング歌唱。歌のみならず殺陣もこなし、音楽劇を展開。欧米ツアーも成功させ、世界的な評価を得る。ヴォーカリストのみならずドラマーとしても、バックバンドで演奏。				
授業概要					
筋肉トレーニングとストレッチを実演しながら指導					
到達目標					
見た目にも美しく、正しい発声をしやすい機能も備えた体を作り上げる。					

授業計画・内容	
【前期】 1～3回目	ストレッチ、体幹トレーニング、筋肉トレーニング、有酸素運動、脱力
【前期】 4～19回目  【後期】 1～20回目	以上のトレーニングを講師が毎回確認し、各人に必要となるトレーニングを指導する。また、トレーニングの仕方もチェックし、正しいトレーニングがされていない場合、修正指導を行う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ヴォーカリストは身体が楽器であること、ステージに立ち、歌い、動き、話すことを二時間以上行うには相応の体力と筋力が必要なこと、そして何よりもスタイルの良さを求めることから目を逸らさないこと。
使用教科書	目的に沿って自ら考案した筋力トレーニング、体幹トレーニングのメソッド集を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	ヴォイストレーニングⅡ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験21年 2000年メジャーデビュー。ソロヴォーカリストとして人気音楽ゲームのオリジナルソング歌唱。歌のみならず殺陣もこなし、音楽劇を展開。欧米ツアーも成功させ、世界的な評価を得る。ヴォーカリストのみならずドラマーとしても、バックバンドで演奏。				
授業概要					
正しいヴォイストレーニングの方法、実践。					
到達目標					
歌声を出す為の身体の使い方のうち、基礎となるものの修得。					

授業計画・内容	
【前期】 1～6回目	姿勢。それを正すストレッチ、筋トレ
【前期】 7～13回目	腹式呼吸、腹式発声
【前期】 14～20回目	活舌
【後期】 1～6回目	共鳴
【後期】 7～12回目	支え
【後期】 13～19回目	まとめ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	届ける声、言葉の為の共鳴や滑舌等の重要性を知識と感覚の両面で身に付けることを目指し、それらを歌う時に織り込むことを心がけること。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれの担当講師が考案したメソッド集を使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(ヴォイストレーニング)Ⅱ	授業形態 / 必・選	実習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験22年 1999年大編成Soul/Funkバンド結成し、3枚のアルバムを発表。その後、有名音楽家のバンドのリードヴォーカリスト、大ヒットゲームサウンドトラックの歌唱を担当する傍ら、大ヒットゲーム／アニメの関連楽曲の作詞を多数手がける。				
授業概要					
楽曲に合わせた身体の使い方、使用箇所、度合いについて学びながら、発声法のクオリティの向上を行う。					
到達目標					
1年次に学んだ発声法を固めると共に、個々の持ち味及び長所を発展させ、歌唱技術及び自己表現の実践における完成度を向上させる					

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	1年次に学んだ発声法の再認識。
【前期】 6～10回目	腹式呼吸についてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。 腹式発声についてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。
【前期】 11～15回目	ロングトーン・スタッカートについてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。 ウィスパーヴォイスとファルセットについてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。
【前期】 16～21回目	ミックスヴォイス、高音域、支えについてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。
【後期】 1～4回目	共鳴、ダイナミクスについてのレクチャーと楽曲に取り入れての練習。
【後期】 5～8回目	歌詞や楽器演奏についてのレクチャーとそれらに合わせたコントロールの練習。
【後期】 9～12回目	「ヴォーカル・プレゼンテーション vol.1」／発表会に向けて歌唱技術に着目したレッスン
【後期】 13～15回目	1、2年合同発表会に向けて歌唱技術に着目したレッスン。
【後期】 16～19回目	総まとめ
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	譜面通りの正しい歌だけでは人を惹き付けることは出来ない。使えるテクニックを増やし、全てのフレーズに飾りを施して、様々な変化を加えて歌えるようになること。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(テクニック&リズム)Ⅱ	授業形態/必・選	実習	必修
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	39回(78単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験37年 1984年メジャーデビュー。1994年ソロとしてデビュー。デビュー曲はドラマの主題歌として起用された。ソロ演奏のほか、独り舞台、セッションデュオなど、幅広く活動中。			
授業概要				
学生が個々に課題曲を選び、“テクニック”面と“リズム”面のアプローチをどう形成するかを学ぶ。				
到達目標				
1年次に学んだテクニックとリズムの基礎知識を再認識させ、さらなる意識の向上を図り、歌唱表現において、様々なパターンに対応出来るようにする。				

授業計画・内容	
【前期】 1～5回目	自由曲(ミドルテンポ・ハイテンポ)に対しシェーカーもしくはステップしながら歌う。
【前期】 6～10回目	身体でリズムをキープしつつ発声の強弱をつける事で、リズム面のテクニックであるアクセントを表現。
【前期】 11～15回目	自由曲(ミドルテンポ・ハイテンポ)に対しテクニックのベンドの位置を指定し歌う。
【前期】 16～19回目	スローリズム・バラードでのヴィブラートの使い方、リズムの捉え方を意識。
【後期】 1～5回目	スローな曲で音符と音符の間にもあるグルーブを意識
【後期】 6～10回目	自由曲(スローテンポ・バラード)に対しシェーカーを使ってリズムを細かく意識しつつ、大きなメロディを歌う中で、ウisperヴォイス、エッジヴォイスを使えるようにする。
【後期】 11～15回目	『テクニック&リズムアレンジ』これまで学んだことを意識して自分で対応する。
【後期】 16～20回目	自由曲を様々なテクニックを使い、様々なリズムパターンで歌う。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏に様々なテクニックやグルーブ、ノリがあるのと同様に、自分の歌にもそれらを入れて歌うことが大切。たとえバラードタイプの曲にもそれが必要なことを心がけること。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	歌唱自由(クリエイト)Ⅱ	授業形態 / 必・選	実習	必修
		年次	2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	40回(80単位時間)	年間単位数 2単位
科目設置学科コース	ヴォーカルコース			
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年1stシングルをリリース。有名ライブハウスを中心に活動、大規模イベントライブに参加、大規模ホールでのワンマンライブを成功させる。その後オリジナル曲弾き語りライブなど活動の幅を広げる。現在、ヴォイストレーナーとしても活動中。			
授業概要				
一年次に引き続き、自由に課題曲を選び、発声・テクニック・ステージングなど全ての面でその曲を仕上げ				
到達目標				
自分の個性、キャラを活かす方法を理解し、ステージやオーディションへと繋げていく。				

授業計画・内容	
【前期】 1～4回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発声面の指導項目</li> <li>・表現法の指導項目</li> <li>・ステージング面の指導項目</li> </ul>
【前期】 5～20回目  【後期】 1～20回目	以上の指導項目を、学生が月1で変える自由曲に対して指導することを繰り返していく。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	歌というものは声だけではなく、全身で、使うべきものは全て使って“伝える”ものであることを理解すること。自分の好みで方向性を決めるという形ではなく、“出来るもの、歌えるもの”を目指させる。更に、これらのことは自分の思い込み、こう歌いたいということのみで作りに上げるのではなく、世界観に対するものであること。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	アーティスト実地演習Ⅱ	授業形態 / 必・選	演習	必修	
		年次	2年次		
授業時間	180分(1単位時間45分)	年間授業数	8回(32単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	各科目担当講師、及び研修先のご担当者様等。				
授業概要					
それぞれのイベント等において接客対応、現場における作業について研修を行う。					
到達目標					
現場における作業、流れ等のノウハウ習得。 イベント等を協力して作り上げることによるコミュニケーション能力の向上。 企画、立案、進行等、インプット・アウトプット能力の向上。					

授業計画・内容	
1回目～2回目	学園祭準備①②
3回目～4回目	学園祭本番①②
5回目	学園祭片付け、原状回復
6回目～7回目	コースイベント①②
8回目	コンテストファイナル
評価方法	平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	この演習を通じて、現場における流れや、他社とのコミュニケーションの仕方等確りと学んでください。
使用教科書	当日の役割分担表、業務要項等を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択DAWⅡ	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験39年 在学中よりタレントのバックバンドでキーボードを担当。同時に自己活動で作詞、作曲を行う。数々の有名アーティストのサポート活動、楽曲提供を行う。				
授業概要					
DAWを使用してトラック製作する方法を学ぶ					
到達目標					
それぞれの音楽活動の幅や、音楽に対する興味を広げる					

授業計画・内容	
1～3回目	主にオーディオデータを使用した製作 Loopの貼り付けなどで、手軽に楽曲製作をしながらDAW操作の基礎を学ぶ
4～6回目	主にデータ入力を使用した製作 一からデータを打ち込んでいく方法で楽曲を作る
7～9回目	オーディオデータを録音する ヴォーカル、ギターなど、実際の演奏を録音してみる
10～12回目	オリジナルトラックの製作 ヴォーカル用のオケ、オリジナル曲のデモ、HipHopやEDMなどのトラック
13～16回目	簡単なMIX 2MIXやパラデータなどの作成
17～19回目	作品完成、及び提出
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	楽器の演奏ができずともDAWを用いて楽曲制作を行うことができる。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映像制作	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験17年 大学在学中に劇団に在籍。舞台・映像作品への出演を重ねながら殺陣稽古を主催し、パフォーマンス集団の代表を務める。数々の映画やテレビ作品に出演している。				
授業概要					
iPadを用いた動画制作の方法を学び、課題テーマに沿った映像や自身でディレクションした映像の制作を行う。					
到達目標					
動画制作における機器の基本操作方法を習得する 自身のアイデアを撮影し、それを映像として完成させる					

授業計画・内容	
1～3回目	iPadおよびiMovieの基本操作について
4～6回目	複数の映像素材を使用したエディット練習
7～9回目	課題テーマに沿った映像作品の制作
10～12回目	課題テーマに沿った映像作品の授業内発表
13～16回目	自由課題による映像作品の制作
17～19回目	自由課題による映像作品の授業内発表
評価方法	授業内発表の評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	簡単なプロモーションムービーやミュージックビデオなど、動画制作の第一歩としての履修を前提とする。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択映画鑑賞	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次	19回(38単位時間)	2年次	年間単位数
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験29年 1992年にCDデビュー。国内外でライブ活動を行い、テレビ・ラジオなどのメディアにも出演。著書「バンド・ボーカル読本」を発売し、近年はソロ活動やコラボバンドのリードヴォーカリストとしても活動中。				
授業概要					
エンタテインメントに関連する映像作品の鑑賞を通じて、脚本や撮影方法の工夫を学ぶ。					
到達目標					
教材として扱う映画作品の注視すべきポイントを知ったうえで鑑賞し、その手法を知る。感受性が豊かになることで、自身の芸能活動におけるクリエイティビティを広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	作品① 鑑賞とリアクションペーパーの提出
4～6回目	作品② 鑑賞とリアクションペーパーの提出
7回目	ディスカッション「名作映画が名作とされているのはなぜか」
8～10回目	作品③ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
11～13回目	作品④ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
14回目	ディスカッション「今まで鑑賞した映画作品の中で一番好きな作品とその理由」
15～17回目	作品⑤ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
18～19回目	作品⑥ 鑑賞とリアクションペーパーの提出
評価方法	各作品におけるリアクションペーパーの評価、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	映画には音楽・演技・ダンスなど様々なエンタテインメントが使用されている。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択セルフスタイリング	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴16年 スキンケア、メイクの基礎から応用、セルフスタイリングなどを指導。特殊メイク、エアブラシメイクを習得し、音楽の現場を主にミュージシャン、アーティスト、声優のヘアメイクを担当。撮影、イベント、舞台など、多方面で活躍している。				
授業概要					
自身の肌質や髪質を知り、各自に適したヘアスタイリングやメイクアップ方法を学ぶ。					
到達目標					
スキンケアやヘアケアの方法を習得する。 オーディションやイベント時のセルフスタイリング方法を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	肌ケア、肌トラブルについての講義を通して、スキンケア方法を学ぶ。
4～6回目	メイクアップの基礎知識とナチュラルメイクの方法を学ぶ。
7～9回目	基礎メイクをベースにした応用メイクを学ぶ。
10～12回目	ヘアアレンジ基礎として、ヘア道具やスタイリング剤の扱い方とヘアアレンジのベース作りを学ぶ。
13～16回目	基礎をベースにした応用ヘアアレンジ方法を学ぶ。
17～19回目	ヘア、メイク応用実技 自分に合ったバランスの良いメイク、ヘアスタイルを完成させる。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	我流のメイクやヘアアレンジを続けていると、肌や髪を痛める原因にもなりますので、この授業を機に正しい方法を身に付けてください。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ボディメイキング	授業形態 / 必・選	講義	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験25年 フィットネスインストラクターとしてトレーニング指導を行う。また、モデルとして雑誌やCM、TV出演。スポーツ施設受託運営、出張パーソナルトレーニング、スポーツイベント企画を行う会社を運営も手掛ける。				
授業概要					
人間の身体の仕組みや、効率の良い筋力トレーニングや体幹トレーニングの方法を学ぶ。					
到達目標					
どのようなトレーニングがどのような効果を生むのかを知る。 各種トレーニングを習慣化する。					

授業計画・内容	
1～3回目	骨格・骨格筋の知識を取得&基本姿勢を作る為のホームトレーニングパターン
4～6回目	トレーニング原理・原則による実技(目標・目的に応じたトレーニング法)
7～9回目	体幹を意識した自重トレーニング理論・実技&ストレッチの基本～応用
10～12回目	セルフボディーケア(ゆるみ・こわばり調整)器具を使用するトレーニング方法
13～16回目	ダイエットに関する理論&器具を使ったサーキットトレーニング(脂肪燃焼メイン)
17～19回目	自重スーパーサーキット法を用いた高負荷トレーニング(心肺持久力・脂肪燃焼メイン)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	アーティスト・俳優・声優などの芸能活動における基礎となるトレーニング方法を教示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

## 専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キャリアプログラム	授業形態 / 必・選		講義 選択	
		年次		2年次	
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	2単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経歴31年 大学にてジャズギターを学んだ後、卒業後はCM作曲家として活動を始め、現在に至るまで作曲や、楽曲のプレゼン、楽曲とコンテンツ(画像・動画等)を合わせた納品等を行う。				
授業概要					
Microsoft OfficeソフトやおよびAdobeのデザインソフトについて学ぶ					
到達目標					
コンピュータの仕組みや基本操作方法を習得する Microsoft OfficeおよびAdobeのデザインソフトの使用方法を習得する					

授業計画・内容	
1～5回目	Macの基本操作について
6～10回目	Microsoft Office (Word) の使用方法の習得と実践
11～15回目	Microsoft Office (Excel) の使用方法の習得と実践
16～19回目	IllustratorおよびPhotoshopの使用法の習得と実践
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	職種問わず、仕事をするにあたって最低限必須となる知識の習得を目指す。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択アンサンブルⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験31年 1990年よりフリーのギタリストとして活動開始。その後、ハウスバンド、バックバンド等のサポートやレコーディングに参加。				
授業概要					
担当講師で定めた課題曲を題材にし、実際に曲の中で用いられている演奏方法や形式などを理解して習得していく。					
到達目標					
原曲の持ち味を知るところから始め、素材として必要な部分を読み取りながらアレンジを行う。					

授業計画・内容	
1～3回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲に対するの完成性を追求しながら、曲が持つ重要なポイントを見つける。</li> <li>・各パートの関連性を理解し、合奏するときの意識をお互いに持つ。</li> </ul>
4～6回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題曲を譜面に書き出し、全パート共通のマスター譜を作る。</li> <li>・音符や記号を使い、各パートに必要な情報や変更を譜面に反映させる。</li> <li>・記録の重要性を理解し音源の録音をして置く。</li> </ul>
7～9回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌詞や譜面から得られる情報に加え、耳から得る音としての情報をしっかり取り入れる。</li> <li>・より歌いやすい、演奏しやすい、聴きやすいをテーマに、合奏を心がける。</li> </ul>
10～12回目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際にステージに立ち音響、照明を入れて演奏する。</li> <li>・セッティング図 / セットリスト / 音源 など、必要資料の存在と提出の仕方を知る。</li> </ul>
13～16回目	曲に対するの、素早い対応と理解力を向上させトータル的なプロデュースが出来る様になる。
17～19回目	表現方法の一つとし、人前に立ち演奏するところまでをパッケージとして考えられるようにする。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	基本的には「1年アンサンブル」を延長した内容ですが、題材にする既成曲の音楽的な難易度が違ってきます。邦楽が主な題材ですが、洋楽を扱う可能性もあります。
使用教科書	1年次に習得した音楽理論や知識を元に、マスターとなる全パート共通の楽譜を作成し、演奏上必要な情報を書き加えていく。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ヴォーカルⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	<p>実務経験32年                  ニューウェーブオペラで鮮烈なオペラデビューを飾る。バロックオペラから現代オペラ・オペレッタ・ミュージカルまで多くの作品に出演。狂言とオペラの東西文化融合舞台で活躍。コンサートでは高い身体能力を活かした華麗なステージとMC(語り)で好評を博し、他に第九や宗教曲のソリストとしても活躍している。</p>				
<b>授業概要</b>					
腹式発声・腹式呼吸・滑舌・共鳴・支え・喉の開き方、等を体得させ、歌唱表現に対し積極的になれる様導く。					
<b>到達目標</b>					
カラオケのレジャー感覚に留まらず、自己表現のとしての意識を持たせる。 もっとうまく歌いたいという向上心を持たせる。 1曲フルコーラスで歌えるようにする。					

授業計画・内容	
1～3回目	レベルチェックを行い、クラス分けをする。
4～6回目	発声①腹式呼吸と共鳴(からだのしくみの解説・呼吸法の実践)
7～9回目	発声②ロングトーンとその支え(横隔膜のコントロール 呼気吸気のバランス)
10～12回目	発声③リズムと滑舌・スタッカート(母音子音の口の形 8ビート16ビートそれぞれの感じ方)
13～16回目	発声④表現力を身に付ける(歌詞の解釈・音読 ステージング)
17～19回目	今までの復習 合同発表会(これまで身に付けたスキルを用いて実践する)
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	正しい発声方法を学ぶことで、体に負担をかけずに歌えるよう改善していきましょう。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択エレキギターⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目 該当 <input checked="" type="checkbox"/> 非該当 <input type="checkbox"/>				
担当講師 実務経歴	実務経験14年 コンテストで審査員特別賞受賞後、2007年メジャーレーベルにてCDリリース。その後、自身のグループで多数の音楽フェスへ出演し、ドラマテーマ曲のギターを担当する等幅広く活動。近年、ゲーム音楽にも活動の幅を広げ、有名ゲームのサントラレコーディングに多数参加。				
授業概要					
ギターの演奏に必要な技術、知識を習得する。 作曲、制作志向の学生も多いので、音楽理論も併せてレッスンをしていく。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したギターの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	エレクトリックギターの楽器自体の仕組み、TAB譜の読み方や説明 オープンコードの習得
4～6回目	パワーコードの習得 チョーキング・ソロフレーズの習得
7～9回目	オクターブ奏法 サウンドメイキング講座
10～12回目	アコースティックギターの各部名称、TAB譜、コードダイアグラムなどの説明。 8ビートのコードストローク、コードチェンジの練習。
13～16回目	ダイアトニックコード(3声、4声)の説明。 主要なコード(メジャー、マイナー、セブンス)のローポジションでの練習。
17～19回目	フィンガースタイルを中心とした課題曲の練習。 アルペジオ、ツーフィンガースタイルの練習。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	エレキギターの演奏や音楽理論を通じて、アーティスト活動や作曲活動の幅を広げる。
使用教科書	講師が作成したオリジナルのエクササイズ集 演奏用エクササイズは往年のロック・ポップス・のスタンダード、または講師オリジナルのエクササイズ譜面を配布

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ベースⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験41年 有名アーティストのさまざまなステージ、レコーディング、サポートを行う。音楽雑誌にて、奏法解説などを連載。教則本もスラップ、5弦などの専門書など多数執筆。				
授業概要					
ベースの演奏に必要な技術、知識を習得する。 また、演奏を通してリズム感を培う。					
到達目標					
それぞれの用途に対応したベースの基礎的な演奏技術、楽器の知識を習得する。					

授業計画・内容	
1～3回目	チューニングのやり方。(各弦を何の音階に合わせるか等) 指板の説明。 右手の2フィンガーピッキング。
4～6回目	左手のフォーム。ワンポジションで弾くメジャースケールの運指。 メジャースケールとマイナースケールの違いと左手のシェイプ。
7～9回目	4小節程度の簡単なコード進行でコードトーンを弾いてみる。 左手のフォームの強化(筋トレ)音符の説明とリズムトレーニング。
10～12回目	譜面の読み方、音階の説明。短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 ピック奏法。リズムトレーニング(シンコペーション等の特殊なリズムにも挑戦)
13～16回目	ピック奏法で短い楽曲(リフモノ含む)をメトロノームと一緒に演奏。 スラップ奏法等の特殊な奏法に挑戦。
17～19回目	簡単なリフ等を演奏。 楽曲演奏に挑戦。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	上達には個人差があるので焦らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ドラムⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験20年 2001年メジャーデビュー。TV音楽番組にレギュラー出演。その後、複数のグループのドラムを務め、日本全国にとどまらず海外でも活躍。現在はさまざまな現場での技術指導など、後進の育成も務める。				
授業概要					
基本的なリズムやグルーブを習得する。					
到達目標					
様々な分野で活動していく為にドラム演奏を通して表現力に幅を出せる様にする。					

授業計画・内容	
1～3回目	自己紹介、授業内容の説明。 到達点、目標をそれぞれ決めてもらう。
4～6回目	楽器の名称、簡単なドラム譜の読み方、各楽器の特徴、セッティング方法。 8ビート: 様々なフットワークを用い、8分音符を基調としたリズムパターン。
7～9回目	フィルイン: 8分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。 16ビート: 16分音符を基調としたリズムパターンにフィルインを入れる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	フィルインとしてアクセントストロークを8ビート、16ビートのリズムパターンに入れる。 シャッフル: リズムの取り方、イーヴンとバウンスの違い。
17～19回目	課題曲に合わせ演奏。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	日々のテクニックの積み重ねが必要な為、常日頃からの鍛錬を怠らない。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択キーボードⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経験23年 1998年にメジャーデビュー。バンドでは作曲、アレンジ、コーラス、キーボードを担当。バンド解散後はサポートミュージシャンとして様々なアーティストのLive、レコーディングに参加。				
授業概要					
基本的なコード演奏や進行を学ぶ。 また、それに伴って基礎的な音楽理論を学ぶ。					
到達目標					
キーボード演奏を通じて、自身のアーティスト活動の表現力の幅を広げる。					

授業計画・内容	
1～3回目	スケール練習とともにKeyの基礎知識を確認する。 ダイアトニックコードについての説明。それを課題曲に活かしていく。
4～6回目	スケール練習を続けていく。さまざまなテンポ、リズムで弾いてみる。 コードの転回形を学ぶ。講師が書いたコード進行を見て、転回形を考えて弾く練習。
7～9回目	右手でコードを押さえ、左手でリズムパターンのはっきりしたベースを弾く練習。 学生同士で左右の役割を分けて、アンサンブルのように練習してみる。
10～12回目	4種類のストロークの説明、使い方。 ストロークの使い分けを用いたアクセントストローク(8分、3連、16分)。
13～16回目	印象的なイントロのついている曲を課題とする。 ピアノらしいイントロの練習。コードをアルペジオにして演奏してみる。
17～19回目	アルペジオで弾くことで、指の動きの練習に結びつける。 一人で左右とも違う動きができるように練習する。
評価方法	学期末の試験、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	初心者にとっては難しい部分もあると思うが、練習することで技術力が上がっていくことを実感できる。コードや音符の知識の必要性に気づくことが大切である。集中力を持って練習すること。講師は授業内容でそれが保たれるよう、具体的な練習方法を指示する。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。

専門学校ESPエンタテインメント東京

授業科目名	選択ダンスⅡ	授業形態 / 必・選	実習	選択	
		年次	2年次		
授業時間	90分(1単位時間45分)	年間授業数	19回(38単位時間)	年間単位数	1単位
科目設置学科コース	音楽アーティスト科 全コース				
授業科目要件	実務経験のある教員による授業科目		該当 <input checked="" type="checkbox"/>	非該当 <input type="checkbox"/>	
担当講師 実務経歴	実務経歴13年 専門学校卒業後、アーティストのバックダンサーを中心にキャリアをスタート。 現在ではアイドルグループのコレオグラファーとしても活躍。				
授業概要					
アイソレーションや簡単な振付など、基礎的なレッスンを中心に行う。					
到達目標					
ダンスを通じてリズム感を養う。 体を使って表現することで、自身のアーティスト活動におけるパフォーマンス力を身に着ける。					

授業計画・内容	
1～3回目	基本的な身体の使い方をストレッチなどを通して学ぶ。
4～6回目	身体の細かい部分の動かし方を習得する。
7～9回目	音楽やリズムに合ったからの動かし方を学ぶ。
10～12回目	課題曲および振り付けを使用して練習する。
13～16回目	振り付けをいかした身体の魅せ方を習得する。
17～19回目	授業内発表会
評価方法	学期末の試験・発表会、及び平常点(授業態度、レポート提出状況・内容、出席率等を総合的に評価)
学生へのメッセージ	ダンスを通して身体を動かす楽しさやリズムをとることの大切さを学ぶ。
使用教科書	目的に沿ってそれぞれ担当講師が考案したテキストを使用。